



暑さに屈せず  
伝統の粘り強さで初連勝!

# 駒澤大学 2-1 中央大学

途中出場から決勝弾を挙げた齊藤(撮影: 清村亮太)

5月2日 11:30 横浜市三ツ沢公園陸上競技場

駒大 2 (0-0) 1 中央大  
(2-1)

得点者 (7/スト)

[専]53分小牧(小牟田)

[専]83分古橋(三島)

[専]88分齊藤

KOMAZAWA	CHUO
GK①秋山瑠偉(4)	GK②置田竣也(2)
DF⑬大木 暁(4)	DF⑬高橋龍之介(4)
DF⑤伊藤慎人(4)	DF⑤岡崎亮平(4)
DF④平尾優頼(4)	DF③小出啓太(3)
DF⑯柳川剛輝(3)	(70分⑮縣 翔平(2))
MF⑩板倉直紀(4)	DF⑳新藤菜央(2)
MF⑦立石忠之(3)	MF⑳橋本龍馬(2)
MF⑰平野篤志(3)	MF㉒三島頌平(1)
(90+1分㉑鹿野剛己(3))	MF⑩砂川優太郎(4)
MF⑱吉岡雅和(2)	MF⑪古橋匡梧(2)
(75分⑧齊藤純平(4))	MF⑦矢島輝一(1)
FW⑪小牧成互(4)	(60分内田祐介(2))
(84分⑩キムデセン(2))	FW④渋谷 亮(4)
FW⑨小牟田洋佑(4)	(60分㉓藤橋弘貴(2))
<b>S U B</b>	<b>S U B</b>
GK②積田景介(4)	GK①前田 将(4)
DF②嶋谷昇大(3)	DF⑳鴨池陽希(1)
MF④児玉卓也(2)	MF⑥秋元佑太(4)
FW②大谷真史(2)	MF⑦山田和輝(3)
<b>MANAGER</b>	<b>MANAGER</b>
秋田浩一	白須真介

[シュート]9:3 [GK]12:4 [GK] 11:4 [直接FK]15:13

[間接FK]1:6 [主審]新井智也 [観衆]275人

警告(C) / 退場(S)

[専]18分 橋本龍馬(c)

## 齊藤の勝ち越し弾で中央を制す

前節 2 年半ぶりとなる 1 部での勝利を挙げたイレブン。圧巻の試合展開だった流経戦のように終始中央を圧倒。失点はしたものの、齊藤の勝ち越し弾ですぐに巻き返し、今季初の連勝を飾った。

まだ未勝利と不調の中央大に前節同様、前へ前へと押し出すサッカーで序盤からゲームを支配する。最初のチャンスは前半 3 分、連続で CK を獲得。小牟田や平尾など高さのある選手たちでゴールを狙うが、最後まで押し込みきれない。さらに、28 分にも CK を獲得。板倉がニアに蹴ったボールを吉岡が受け取りシュートを放つがポストに直撃。さらにその 8 分後の 36 分にはまたも、CK から立石が頭で合わせるも中央 GK の置田に防がれてしまう。中央の 2 倍以上のセットプレーで中央ゴールへと果敢に迫るも決められず、前半はスコアレスのまま終了した。

後半、真夏のような暑さで徐々に選手たちの体力は奪われてもおかしくない今節だが、持前の粘り強さで、運動量を切らさず走り続け、駒大のペースを維持する。

開始早々の 47 分、平野が裏へと抜け出し、右サイドをドリブルしシュートを放つ。惜しくも右へと逸れてしまったが、良い流れを作る。するとその 5 分後、板倉のコーナーから小牟田が競り合い、落ちたボールを混戦から小牧が振り向き様のシュート押し込み先制点を挙げる。このまま追加点を奪い、勝利を確実なものにしたい駒大は 73 分に吉岡に替え、攻撃的な齊藤を投入する。そして、試合終盤に差し掛かろうとした 83 分、自身たちの連携のミスでパスを繋がれ、古橋の右足が決まり同点とされてしまう。終盤で崩され、引き分けに終わるかと思われた。しかし終了間際、大木の右サイドからのクロスの小牟田が頭で合わせる。置田に弾かれるも、クリアボールを途中出場の齊藤が気迫の頭で押し込み、勝ち越し弾を挙げる。その直後、笛が鳴り試合終了。今季初の連勝で嬉しい勝ち点「3」を手にした。

秋田監督は勝因について「選手が勝ちたいという気持ちで頑張った」と今節も粘り強いプレーで連勝を飾った。次節筑波戦、駒陸での集中応援日。ホームとなる地では是非とも 3 連勝を期待したい。